

仲谷鈴代記念賞

「終末期医療において、食事を心のケアに」を目標に

医療法人 綾正会 かわベクリニック

この度は、第23回（公社）大阪府栄養士会研究発表会において「仲谷鈴代記念賞」を頂き誠にありがとうございます。

当クリニックは、在宅療養支援診療所として医師、看護師、栄養士が連携し、在宅で療養する患者さんのケアを行っています。在宅での生活の中で、食べるサポートをすることで最後まで穏やかに過ごすために栄養士がどのようにかかわればよいか、訪問栄養食事指導を通じて気付いたことを発表し、訪問栄養食事指導の普及につながればと考えました。

まず、現在訪問している患者さんについて、初回訪問から現在までの身体計測、低栄養評価、血液検査データ、褥瘡評価、多職種との連携ノートを分析し、在宅療養にどのような変化や改善がみられるかを検討しました。結果として、今回改めて訪問栄養食事指導の評価を行なったことで、今後どのような関わりをしていけばいいのか、どのような分野の知識をより深めていく必要があるのかが分かりました。また、家族や介護者の食事に関する負担を軽減することで、

療養者がより穏やかな生活を送ることができるという事が分かりました。また、在宅で栄養士が必要とされていることを感じる事ができました。同時に栄養士が訪問できるという事、栄養士が訪問することで介護者の負担を軽減できるという事があまり知られていないことが分かりました。

今後在宅療養者が増えていく中、栄養士が関わることで療養者とそれを支える家族や介護者の負担を減らし、在宅での生活をより穏やかに過ごすことができるという事を、多くの方に知っていただく必要があると感じています。また、在宅において栄養士がもっと活躍し、訪問栄養食事指導が今以上に普及していくことを望んでいます。そして今後も、在宅での訪問栄養食事指導の普及に努めていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の発表にあたりご協力いただきました関係者の皆様、ご推薦いただきました座長の先生をはじめ関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

仲谷鈴代記念賞

「中心静脈栄養から経口摂取へ移行できた 認知症高齢者の一症例」

医療法人聖志会 渡辺病院 栄養課 植田菜月

この度は、第23回（公社）大阪府栄養士会研究発表会において「仲谷鈴代記念賞」を頂き誠にありがとうございます。

当院は、認知症の方を中心とした高齢者医療に取り組んでいる病院です。認知症による周辺症状のひとつに食行動の異常があり、治療抵抗性の不食や拒食により中心静脈栄養（TPN）に至る症例も少なくありません。今回、認知症高齢者患者が重度の食欲不振を認め、TPN管理となりましたが、栄養管理として食事形態や量の調整を行いました。その結果、静脈栄養を離脱し、経口摂取へ移行できた症例を経験したので発表させていただきました。

消化管に器質的な原因がないにもかかわらず、嘔気や上腹部不快感を訴え、ほとんど食事摂取できておらず、るい瘦が著明な患者さんでした。しかし、食欲低下時でも経口摂取できる食品を選択しながら対応し、食欲改善の兆しをみながら食事量や栄養補助食品の調整を段階的に行なったことで無理なく経口摂取量増量、継続につながった症例でした。あわせて、TPNと経口摂取の併用でエネルギー必要量を当初から充足し、た

んばく質量も確保できていたため、栄養状態の低下なく、体重も徐々に増加することができました。また、入院病棟変更後、他患者の食事風景を見て食欲が刺激されたことに加えて、安全確保のため施行していたミトン、車椅子ベルトなど行動制限の解除も食欲改善の要因であると思われました。

認知症に伴う食欲不振に対して原因を特定することは難しく、対応に苦慮することもあります。経口摂取とTPNの併用で栄養管理を行い、患者さんの状況に応じて個別に対応していくことで経口摂取へ移行できる可能性を見いだすことができました。今後も、この経験を活かし一人でも多くの患者さんが経口摂取の維持ができるよう業務に取り組んでいきます。また、このような症例の報告も続けていきたいと存じます。若輩ながら、ご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願い致します。

最後になりましたが、今回の発表にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様、ご推薦いただきました座長の先生方に深く御礼申し上げます。